

次世代へつなげたい

日野町「子育ての知恵袋」



も く じ			
1	親子のふれあい	・・・ 1～4 ページ	14点
2	家 族	・・・ 5～6 ページ	6点
3	遊 び	・・・ 7 ページ	4点
4	体 験	・・・ 8～9 ページ	5点
5	物の大切さ、しつけ	・・・ 10～11 ページ	5点
6	地 域	・・・ 12～14 ページ	11点
7	生活の知恵	・・・ 15 ページ	2点
8	その他	・・・ 16 ページ	4点
			(知恵袋合計 51点)
※	リ 俚 げん 諺	・・・ 17～18 ページ	35点
※	参考資料	・・・ 19～21 ページ	

平成24年 3月

日野町教育委員会

1 親子のふれあい

○ 豊かな心を育てる（黒坂、65歳、女）

子どもが小さい時、お母さんの膝の上に抱っこして、絵本を読んであげよう。
子どもは楽しく、幸せな気持ちで愛されていることを感じることができます。
仕事優先の子育てで本を買い与えて読むことはあっても、膝の上に抱っこして読むというぬくもりのある時を持たなかった母親の反省です。
小さいうちにたっぷり愛情体験を！

○ スキンシップ（日野町）

お母さんやお父さんとのスキンシップに、手足を使っの遊びに、子ども(赤ちゃん)は喜びます。
足を突き合わせて手をつなぎ、交互に押したり引いたりします。
足に子どもを乗せて、飛行機風にする。
子どもを抱っこして、わざと揺らしたりして、落っこちないようにして遊ぶ。
など、体を使っの遊びは、大人も子どももいい運動になります。



○ 豊かな親子関係（金持、66歳、男）

子どもの情緒の基本的な部分の構成は、小学校3年ごろまでには完成すると思う。
男児のみならず、後年の良き豊かな親子関係を築くには、子どもの目線に合わせた野球のキャッチボールが一番良い。
やさしさ、思いやり、ゆとりの交換である。
暴投、落球、後逸等々の中からの会話は、最高の教育と思料するが、諸兄は如何に思われるか？

○ 誕生日（根雨、60代、女）

子どもが生まれたときのあの喜びは、今も忘れることはない。
はえば立て、立てば歩めの親心で、次々と期待が大きくなっていく。
時には、重荷になるほどの期待をかけて、子どもを苦しめることがあるので気をつけたい。
子どもの成長を祝って、誕生日には家族そろって喜びを伝えてやりたい。
アルバムなどに成長記録を残し、一人ひとりの子どもに宝物として残してやりたい。
大事な存在として生まれてきてくれてありがたい気持ちを込めて。

○ 私の子育ての反省（黒坂、76歳、女）

共稼ぎ、体調不良、自分の感情をみな子どもにぶち当てるような子育てだったと胸が痛みます。

その中で子どもは、兄がそっと弟を見守っていてくれました。

母の日の作文 「朝の茶碗を夜、洗ってお母さんほんとにありがとう。」

父の日 「お父さんの働く姿が一番好きです。」掃除機を使う絵もありました。

お年玉を相談なく使ったことに対して詰め寄るような叱り方。

楽しみに万年筆をやっと買えた喜びに、与えた痛み。

50歳も過ぎた息子に、先日その時の事を訪ねましたが、覚えていないと言ってくれました。

私は、今でも苛めにも値するような叱り方を反省して忘れることができません。

勤めと家庭と、懸命の私の姿を見て、自分たちなりに理解してくれていたことに感謝しています。

二人とも、横道にそれず、それなりに成長し、自分の子どもの子育ても無事終わりました。

子どもたちが共稼ぎをしたら、自分の子どもに対して懸命な姿、私達がしてやれなかったこと、してもらえなかったことを子どもに活かしてくれているようで嬉しく思っております。

○ 子どもに言われた一言（黒坂、50代、女）

「お母さんっていつも話を背中で聞いてたよね」

子ども達が少し大きくなって小さい頃の話をしていたとき、突然、言った一言。

「いつもいそがしいって言っとったよね」

そのとおり、心にも体にも余裕ってものがなかった。きちんと向き合っていれば、顔だけじゃない頭のてっぺんから足の先まで見てやれたのに、もっと分かってやれたのに。後悔。

君たちはしっかり見てるんですね。お母さんのこと。



○ 息子からのプレゼント（黒坂、50台、女）

息子の小学校の友人のお母さんから突然のTEL。

「久しぶり。10数年ぶり」

しばらくお互いの近況を話していたら、

「そうだ、どうしても聞かせたい事があってね。〇〇くんがね『ボクは思春期。すごく母に反抗しましてね。母はボクの事で大変だったんですよ。迷惑掛けたんですよ』って話してたよ。ちゃんと自分のこと分かってくれているみたいだよ……」

そう、そんな時がありました。

どうしたらいいのか、どう理解してやったらいいのか分からなくて悩んで、悩んで…。

息子が何を考えているのかわからない時期がありました。
その時のことを話すことはいまだにありませんが、お互いでも、こんな風に思っていたんだと。

「良かったね〇〇君はそんな風にあなたの事思ってるよ。」

あの時、出口が見えないような気がしてましたが、息子の気持ちを聞いてうれしくてうれしくて、私は素晴らしいプレゼントをもらったようでした。

○ 子育て （黒坂、62歳、男）

親が子育てをしたのか親が子どもに育てられたのか、気が付けば、その時期は終わり、孫の守りをしてみると、大変だったと同時に夢や楽しみがありました。

子どもが親となった昨今、ありがたいの言葉に肩の荷が降りたような気がします。

何一つできなかった子育てでしたが、元気に成長してくれたことに感謝しています。

育てたように子は育つ。そんな子育てでした。

○ 豊かな心の育成 （黒坂、50代、女）

私は、歌が大好きです。

我が子育ての時にも歌を良く口ずさんでいました。

歌のある暮らしは、心穏やかでないと出来ませんが、そうありたいと心がけることで、自然とそうなるようになっていくと思います。

鼻歌まじりの子育てを、私はおすすめします。

○ 風呂でのふれあい （野田、62歳、女）

勤めていたため、子どもとなかなかゆっくりと話をすることができなかったが、風呂だけは必ず一緒に入り、大きな声で歌を歌ったり、クイズを出したり、話をしたりふれあいをもった。一つだけでも『これだけは』子どもとふれあう時間を必ず持つことをした。



○ 親子の絆 （野田、62歳、女）

布団に入り寝る前に絵本を読むことがたのしみであった。

今は父親になった息子であるが、絵本の事は覚えており、子どもが学ぶにはとても良い。また、親子の絆が出来る。

○ あれこれ （野田、62歳、女）

- ・ テレビを消して、皆で囲む食卓は会話も弾み、心も弾む。
- ・ 子どものころからの会話は、心がけよう。大切な時間です。
- ・ おんぶにだっこ、ハグ、肩と肩のふれあいは、心をつなぐ絆です。

- ・ 子どものころからの食事は一生の体をつくる基本です。
- ・ 早寝、早起き、あいさつは生活の基礎を作る。

○ 共同作業をしましょう (安原、女)

家の手伝い、農作業の手伝い、掃除等は、子どもも大人も一緒に汗を流しましょう。つらい作業を一緒にすることで、お互いを思いやり理解することが出来るようになります。

一緒に作った料理はいつもより美味しくなり、一緒に育てた野菜や米は残債となることなく。

一緒に掃除した部屋は、よごしにくくなると思います。

○ 子どもをしつける時は怒らないで (安原、女)

子どもが悪い事をした時、思わず大声で怒鳴ってしまいがちですが、感情が先走り怒ってしまうと、子どもには怒っている人が怖いということしか分からず、嵐が通り過ぎればそれで終わりとなってしまいます。

怒らずにしかる。

何が悪い事で何をしなくてはいけないのかを、表情を良く観ながら教えてやる。

子どもが理解できたら必ず笑顔のフォローを!!



2 家族

○ 子育て（黒坂、47歳、女）

子どもは、育てたようにしか育たないと思います。

そして、子どもの成長は、同時に自分たちの成長でもあると思います。

子どもは、大人をよく見えています。親の言うことをよく聞いています。

家の中では、人のうわさ話や悪口は言わない方がいいと思います。

家族の最小単位である夫婦の仲がいいということは、とても大切だと思います。

家庭の安定が、子どもの安定につながると思います。

あと、本や映画を家族で読んだり見たりすることは、とてもいいことだと思います。

いい本やいい映画は、人生を豊かに深くしてくれます。

家族で、共通の話題が話し合えるのもいいです。

子どもが、何かいつもと違う様子の方は、一緒にお風呂に入ってゆっくりと湯船につかりながら、いろんな話をします。

その時に、子どもの話を聞いてあげると、けっこうすっきりしたりします。

○ 大家族（根雨、60代、女）

「おじいちゃんが雪かきしてるね」と、孫。

「車がとおれるように、おじいちゃんががんばってるね」

「おばあちゃん何してるの」と、孫。

「お隣のおじいちゃんにお弁当を届けるの」「ふーん」。

子どもたちは、ひとつひとつ興味津々で聞いてくる。

説明してやると、じっと耳をかたむけ、

また質問してくる。

大切に接することが大事。

親が子どもに対峙する余裕がないとき、祖父母との

同居は大きな意義を持つ。

子どもたちは、家族が多いほど、背中を見て育つ。



○ 夫婦仲（根雨、60代、女）

我が家の息子夫婦の会話を聞いていると、なんだかとっても楽しそう。

笑い声や話し声が明るく、ほほえましくてうれしくなる。

そんな中で孫二人、順調に育っていて幸せを感じる。

夫婦仲の良いのはありがたい。

子どもの育つ環境として、暴力や暴言のない日常生活は、とっても大切。

子どもの存在をいつくしみ、夫婦仲の良い家庭に非行や犯罪が起きる確率は少ないと信じたい。

穏やかで、安心安全な町でありたい。

○ **おかあちゃん** （根雨、60代、女）

孫が「かあちゃんがいい、かあちゃん、かあちゃん」と言うのを聞いて、「かあちゃん」ほどいいものはないと思う。

母親に抱きしめてもらった思い出、一緒に歩いたあのひととき、忙しい中で親は、一生懸命、子どもに関わって子育てをしてきた。

無類の愛。それこそが人を育てる。

年をとっても思い出されるのは、ふるさとと両親。

いつまでも懐かしく、恋しいものである。

子どもたちが小さい時こそ、しっかり抱きしめて、一緒にいる時間を作ってほしい。

そんな環境づくりを！



○ **童謡** （根雨、60代、女）

子どもや孫が小さい時、いつも子守り歌のように歌ったのは、自分が小さいころ覚えた童謡。

桃太郎、大黒様、一寸ぼうし、もしもしカメさん、こじかのバンビ、みかんの花の咲く丘、などなど・・・

自然に口ずさんで、子どもたちと穏やかな時を過ごすことができた。

孫が生後3か月のころ、歌に合わせて「オーオー」と声を出してくれた時、話はできなくても、聞いてくれたんだと、驚きと喜びでいっぱいになった。

昔から歌われてきた童謡で、子どもたちと心を通わせたい。

○ **健康・食に関すること** （黒坂、54歳、女）

おいしい物を食べる時、「おいしいね」の一言の大切さを感じてほしいと思います。

作ってくださった人に対する感謝の気持ち、思いやりの心を育てると思います。

作る側も「また、作ってあげるよ」という気にさせてくれます。

3 遊 び

○ 子どもの同級生 （下菅、29歳、男）

昔は子どもが多く、同級生がたくさんいたが、娘の同級生の子どもがとても少なく、一緒に遊ぶことがなかなかできない。

何とかたくさん同級生の子どもと遊ばせてやりたい。

○ 遊戯中の保護者の監視 （黒坂、58歳、男）

遊び場のブランコを姉妹にさせていたところ、近所の男児が隣のブランコに乗り、順番を待っていた女の子の顔に大怪我を負わせた。

30年以上経った現在でも、傷痕が判る。

本人、男の子、家族の心配はいかほどか。

保護者が監視していれば防げたはずの事故。

○ 言葉遊び （黒坂、76歳、女）

今、小さな子どもさんの俳句作りがテレビや新聞で取り上げられています。

日野の自然の美しさや自分の感情を5・7・5にして、言葉選びをしてみてください。

俳句には季語がありますが、その意味を知ればもっと感動があると思います。

（なぞなぞ、尻取り、早口言葉もありますが）

○ 現在の状況 （黒坂、63歳、女）

パソコン、ケータイ、ゲーム等々、私達の年齢ではもう、孫達の生活状況には、ついて行きかねます。

みんなが持っているので、持たない訳にはいきません。

でも、友達の家遊びに行ってもゲームばかり。

もう少し会話や体を動かす遊びをしてほしいものです。

我が家では、田んぼ、畑の手伝いを小さい時から一緒にさせていました。

だから、今でも手伝いをします。

それにならって孫も出てきます。

子どもの笑い声を聞けるのは、

大変楽しいことです。



4 体 験

○ 生活（黒坂、45歳、女）

小さい子どものころから、包丁・ナイフ・針を使う、アイロンを使うことなど、危ないことから遠ざけるのではなく、何でもさせてみることは大切だと思います。

もちろん、そばに親がいて使い方を教えたり、実際に針の先を触らせたりして、危ないということなど体で体験させることが必要ではないでしょうか。

何事も経験だと思います。

○ 芸術的センスのめばえ（黒坂、58歳、男）

公舎住まいのため、幼いころから壁の落書きは厳禁とした。

机、タンスにシールを張ることも。

そのせいか、絵画、音楽等の獨創性、想像力の必要な分野が劣っている感じ。

CMのように、用紙からはみ出すくらいの絵を描かせていれば良かったのかも。

○ ふるさと（思い出）（根雨、60代、女）

親子でふれあいながら、ふるさとの思い出を作るために、子どもが小さい時は、散歩がてら町の中を歩く。

少し大きくなったら、山や川などの自然の中で一緒に遊ぶ。

そして、町内にある遺跡や大切な建物、神社仏閣などを一緒にたずねてみるといい。

親子で共有した思い出は、いつまでも心に残る。

それは子どもの心を豊かにし、自分のふるさとに誇りを持つようになるのではないかな。

たくさんの思い出を残してやりたい。

サケのように、いつかふるさとへ戻ってくるかも？

○ 物事にアタックを（黒坂、88歳、女）

過去においては、子どもたちはよく挨拶をしてくれました。

私の方がびっくりするくらいでした。

このごろは、子ども達の方が、目をそらすように感じます。

子どもたちが、積極的に物事にアタックするようにしたいですね。

失敗してもともと。

物事に進んでアタックしてほしい。

失敗を恐れて何事も消極的な感じがします。

何もせず、いい子、いい子でなく、何事にアタックして、失敗もし、叱られてこそ成長して行くのではないのでしょうか。



○ 子ども会を活性化しましょう （安原、女）

大きい子、小さい子も一緒に遊び過ごす時間を積極的に作りましょう。

同年齢の子どもと過ごしてばかりいると、仲良しの関係が出来ても、従の人間関係が出来にくいです。

昔は大きい子が小さい子を遊びの輪の中に入れて、面倒を見るのは当たり前のことでした。

川で泳ぎを教えたり、山で木登りを教えたり、けんかの力加減を教えたり・・・等々。

親の言うことは聞かなくても、ガキ大将の言うことは聞いていました。

ガキ大将は、しっかりリーダーシップをとれる子どもに育っています。

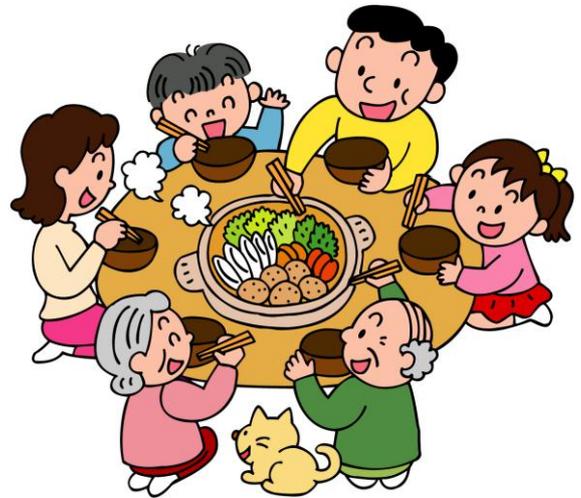


5 物の大切さ、しつけ

○ 生活（衣・食・住） （福長、56歳、男）

私の子どもころは、食べるもの、着るもの、住むところと、豊富とは言えないけれども十分にあったと思います。

その中で、食べるもの、着るものなど、ほしくても我慢しながら生活したように思います。今では、自分のほしいものはお金を出せばすぐ手に入るので、我慢することがない、また、我慢することができないように思います。今の時代だからこそ、我慢することをすれば、物を大切にしたり、人の気持ちなどが分かり合えるような気がします。



○ 物を大切に （根雨、60代、女）

法事の時、お寺の和尚さんが言われました。

「仏様にあげたごはんやお茶は、ゴミとして捨てないで、次のものにあげなさい」と。

「次のものって何ですか」と問うと、

「鳥や魚、花などの生き物」という答えがかえってきた。

「ご仏飯は鳥や魚に、お茶は花など植物へあげて、最後まで大切にしてください」と言われた。身の回りにある物を大事に取り扱いたい。

○ 子育て （黒坂、70歳、女）

仕事をもっていた関係か、自分の子ども（男1人、女2人）が欲しがるものは、ほとんど買い与えていたように思います。

結果、がまんをしない我がままな子に育ったようです。

ある程度の「がまん」と「しんぼう」をさせる育て方を工夫すべきでした。

私の子育て失敗談です。

○ しつけ （黒坂、58歳、女）

私にも孫が出来、最近では自分の子どもに「しつけ」が出来なかった事、もっと教えておかなくてはいけなかった事等、反省しながら孫育てをしています。

親の時代はあわただしく過ぎて・・・振り返ってみて、自分の「しつけ」が正しかったのか？と問いかける毎日です。

ですから、今は祖父母として、孫を通して楽しみながら少しでも世間並みの「しつけ」をと考えています。

私達の時代よりもさらに忙しい今日この頃ですが、どうか、最低限（あいさつ！感謝の

言葉!)の「しつけ」だけは親として頑張ってください。
子どもは、自分の「鏡」です。

○ **ものづくり (黒坂、50代、女)**

今は、何でもお金を出せば買える時代です。

おもちゃもありとあらゆるものが店に並んでいて、どれにしようかと迷うばかり、目移りしてしまいます。

そんな時代だからこそ、手作りのあたたかさ、世界中で一つしかないものの大切さを伝えてほしいと思う。

私達も下手なりに男の子には、手作りの木刀など、女の子には人形などを作ったりしていました。

子ども達は親となった今、それを懐かしんでいます。



6 地 域

○ 地域行事の開催（黒坂、58歳、男）

子どもと保護者の良い思い出となる地域伝承行事、祭礼等の開催を希望。
主催者側、保護者の負担は大変ですが、今、大人がやってやらなければ、子どもの思い出はできない。
楽しかった昔の頃として子どもの脳裏に植え付けたい。

おはようございます!



○ あいさつ（根雨、60代、女）

孫と町を歩いていると、会う人ごとに声をかけてくださる。
頭を下げて一緒に「こんにちは」をする。
お別れするときには、「バイバイ」とか「またね」と言ってくださる。
頭を下げて一緒に「さよなら」をする。
孫は大人の様子を見て、同じしぐさをする。
たくさんの人達に出会って、ひとつずつ身につけていくので、地域社会が子どもたちを育てるという気がする。
子どもは敏感。見ている。聞いている。学んでいる。
大人は言動にいつも意識したい。

○ 出会い（近所つきあい）（根雨、60代、女）

「人の幸せ、不幸せは、どんな人に出会うかによって決まる」と相田みつをさんは書いておられる。
子どもに幸せな人生を歩ませるために、たくさんの出会いをさせたい。
今まで私自身が出会った人々すべてに、子どもを会わせたいと思う。
そのためには、親自身が積極的な対人関係を築いていく必要がある。
日ごろから、隣り近所、地域の人たちと交流を持ち、その人たちに子どもを引き合わせる役目を、大人や親がするといい。

○ 地域の行事（根雨、60代、女）

子どもが小さいころ、地域の夏祭りに毎年親子で参加した。
地域の人たちと町中を練り歩いた。
年中行事として、子どもたちの心に残ったと思う。
その子どもが親になり、子どもをさずかった。（私たちにとっては孫）
祭りがあると連れてきて、親子で踊りの連に入っている。
三代そろって、祭りの輪で踊る姿はそう多くない。
親にしてもらったことを、子や孫に伝えていくことは大切。
体験したことには自信を持って取り組めるし、子どもにも伝えることができる。
ふるさとの思い出づくりにもなる。

○ **地域の行事** （根雨、60代、女）

小さいころ、地域の子ども会で、七夕の行事があった。
ひな段には、朝収穫されたトウモロコシ、ナス、トマト、スイカが飾られていた。
また、笹には、みんなで書いた短冊が結ばれた。
そして、時間になったら、隣り近所の人が集まり、子どもたちの歌や踊りの出し物があり、大人がまわりを囲んでいた。
それは、子ども心に温かく楽しい出来事であった。
すたれつつある子ども会を盛り上げ、ひな祭り、子どもの日、七夕さんなど、節目の伝統ある行事を大切にしたい。
子どもたち一人ひとりが、地域にとってどんなに大切な存在であるか自覚して、大人も一緒に集い楽しみたい。

○ **町内でのあいさつ（特にバス乗車時）** （黒坂、79歳、女）

小学生の時は、登校時道路で会うと「おはよう」、下校時は「こんにちは、帰りました」等、あいさつします。
私達も積極的に声を掛け、たまには学校のことを話してくれることもあります。
でも、中学生になると、物を言わなくなります。
バスの乗車時、運転手さんが一人ひとりに「おはよう」と声を掛けるのですが、黙っています。
そういう年頃だと良く言われますが、小学生は乗る時は「お願いします」、降りる時は「ありがとうございました」等、ちゃんとあいさつをします。
人間のコミュニケーションの第一歩はあいさつからと言いますから。

○ **心の持ち方** （黒坂、55歳、女）

子どもの姿を見る事も少なく、さみしいと思っています。
この年になって感じることは、言って聞かせようとしては、口やかましくしてしまったということです。
子どもは親の姿を見ていると言うこと。
人間関係が希薄になって事件や事故が起こり、よけいに子どもを守ろうとして社会のつながりをなくしてしまっているようにも思います。
自己中心でなく、お互いが認め合い助け合っていく姿を見せることで、子どもたちも自然と学んでいくことができると思います。
顔見知りの多い小さな町だから可能だと思います。
私もだんだん、親の姿に似てきたと思うこの頃です。



○ **思いやりの心** （黒坂、54歳、女）

今までを振り返った時、大勢の人達にお世話になり、支えられたからこそ、やって来られたように思います。

子ども達のいじめ問題に遭遇したときや学級崩壊、不登校の子どもに対応する回りの者の態度、言葉かけなど、はたしてあれで、良かったのか、悪かったのか、今でも分かりません。

親の介護も何度も投げ出してしまうともありました。

そんないろんな場面で、私を支えて下さった人達を決して忘れません。

その人達の笑顔がとても優しかった。

「大丈夫・・・」という言葉がとてもありがたかった。

あの笑顔と「大丈夫」の言葉はこれからも私の心の支えです。

○ **伝統行事** （野田、63歳、女）

昔からの伝統行事を子ども達に伝えていきたい。

行事には、それぞれ意味があり、考えて行くことが大切である。

それを年寄りから受け継ぐ事で、また絆も出来る。

親子で話をしながらすることが大切で、

続けていける。



○ **あいさつをしましょう** （安原、女）

人に会ったらあいさつをしましょう。

最初は大人から声を掛けて、そのうちに、大人も子どもも男性も女性も高齢者も若者も、出会った時にあいさつが出来ると、そこからの心の交流が始まると思います。

我が家のおじいさんは、橋を渡って安原集落に入ったら、出会った人には全部こちらからあいさつをなさい。

地元のもののが先に声を掛けると、皆が声を掛けやすくなると教えて下さいました。

○ **地域の皆さんと積極的に交流しましょう** （安原、女）

自分んの住んでいる地域の行事、とんどさんや季節の祭り等々には、家族そろって積極的に参加しましょう。

地域で伝承されている行事は、身近な文化です。

自分の身近な人や先祖が築き育んできた文化にふれる事から、自分を見直す事もあると思います。

7 生活の知恵

○ 餅の保存 （黒坂、女）

お正月も近いということで、今は冷凍庫保存が当たり前になっている餅の保存ですが、昔は、餅のカビを防ぐため、密封できる箱に新聞紙を敷いて、餅を立てて、真ん中に「かしらし」を入れて保存していた。

今でもこの方法を使っている人もいます。

○ 体に良いもの （根雨、60代、女）

体に良いと言われるものが、身近にある。

日野町にも宝物がたくさんあるので、それを伝え活用したい。

例① セキが出る時の民間療法に使うもの

- ・カリンとハチミツ
- ・大根とハチミツ
- ・白南天や野イチゴのつるのせんじ茶

例② 血液サラサラのために使うもの

- ・梅の煮たもの
- ・玉ネギの酢漬け

その他

- ・ヨモギ、シソ、ユズ、キササゲ、シイタケ、クリ・・・

などが地元にある。地産地消で心身ともにリフレッシュ。



8 その他

○ 教育は徳育から (本郷、73歳、男)

日本人(大和民族)は、「神仏を大切に」というのが私の格言である。

☆教育基本法

日本人＝国家観が無い日本人というのは駄目。国旗、国歌は基本中の基本。

スポーツで優勝しても、他国の選手は国歌を歌っているのに、日本人選手は歌えない。残念です。

☆家庭教育

徳育＝先祖を大切に作る心。両親を大切に作る心。朝夕の挨拶(おはようございます。お休みなさい。行ってきます。帰りました。)

家庭での躰ができる、他人様、先輩、後輩に対する敬語の使い分けもできる。

食事時の作法＝茶碗、箸の持ち方等、これら徳育がしっかりできていれば、学校での勉強も努力し向上してくるものと考えている。

以上、全てではないが、神武以来永久として生き続いた日本人が、この度の東日本大震災で見せた復興への取組。世界中の人々が尊敬の念で見守ってくれていると思います。

○ 新入りを迫害するイジメ (黒坂、58歳、男)

娘が小・中学校で、ノートに落書き、自転車を壊す、下足を捨てられる等よくあるイジメにあった。

転勤しても子どもが転校しなくても良いようにと考え、若くして持ち家を建てた。

震災移住の福島県民の迫害についても耳にする昨今、社会は進歩したようだが、人の業、性について抜本的改善は見られない。

○ 困っている人がいたら助けましょう (安原、女)

高齢者や障がいのある人、病気の人などが困っている姿を見たら積極的に声を掛け、出来ることがあれば援助する心を育てましょう。

自分や自分の家族、大切な人々が病気やケガをした時に親切にしてもらう事が、嬉しい事を理解し、また、自分達子どもも、必ず高齢者と呼ばれる時が訪れる事を理解させ、お互い様、他者が嬉しいという心が育つと、自分も他者も幸福です。

○ まずは子どもの意見に耳を傾けましょう (安原、女)

1歳のAちゃんはAちゃんだけの、5歳のBちゃんはBちゃんだけの思いや考え方があると思います。

大人は長年の経験と知恵で子ども達の事を色々教えてあげるのでしょうが、たとえ幼くてもそれぞれの思いや考え方があるという事を忘れてはいけません。

大人が、まず子ども達の意見に耳を傾けるという姿勢を持つことで、子どもは何をするにも自分で考え、行動に責任を持つという心が育つと思います。

※ り 俚 げん 譚

世間に言い伝えられてきたことわざ

- 朝の下り蜘蛛を懐に入れると銭がたまる（溝口）
- 朝のクモはカタキに似ていても殺すな、晩のクモは親に似ていても殺せ。（郡内一円）
- アリコが千度詣をすれば雨になる。（郡内一円）
- トビが川の上を三回廻れば雨、家の上を廻れば天気になる。（郡内一円）
- 猫が顔を洗えば雨が降る。（宮原）
- 猫が前足で耳を後からなでると天気になる。（宮市）
- 猫が鼻を上に向けて寝ると天気になり、下にして寝ると雨になる。（山上）
- カタツムリをつつくと雨が降る。（小江尾）
- ノミを火にくべて音がすると天気になる。（大滝）
- 家の中で口笛吹くと蛇が寄って来、またエビスサンの機嫌が悪い。（郡内一円）
- クチナワ（蛇）の夢をみるとまんが良い。（黒坂）
- クチナワを指さすとその指が腐る。（郡内一円）
- クチナワが家に入ると家が倒れる。（日野）
- 五月の節句にちまきを茹でた湯を家のまわりに撒くとクチナワが入らない。（根雨）
- 氏神さんが嫌われるので犬を飼ってはいけない。（父原）
- 元日の朝早く晴れていたら稲はワセがよい。（父原）
- ドンビキ（ヒキガエル）の小便がかかると手が腐る。（安原）

- ミミズに小便をかけるとチンチンがはれる。(郡内一円)
- カラスの鳴声が悪ければ人が死ぬ。(郡内一円)
- 冬至にユズ(柚)風呂に入ると一年中風邪を引かない。(溝口)
- カラスに血を見せると人が死ぬ。(黒坂)
- 晩にニワトリが鳴くと凶。(安原)
- 家にいるネズミを恐れると仏さんの使だからよけいに騒いで悪いことをする。(大滝)
- 燕が巢を造らぬ年は火事になる。(中石見)
- ニワトリが高い木に止って鳴くと雨が降る。(花口)
- 四十二の歳にはセリを食べない。(郡内一円)
- 屋敷にアオイを植えると病人が出る。(郡内一円)
- 屋敷にビワを植えると「まん」(運)が悪い。(郡内一円)
- 屋敷に竹を植えると不幸が絶えない。(根雨)
- 柿の種子を火にくべると眼が潰れる。(郡内一円)
- 五月の節句にショウブを頭に付けると頭が良くなる。(郡内一円)
- 正月はトンドサンまで竹を切らない。(郡内一円)
- 九のつく日に柿の木に登ると落ちて死ぬ。(津地)
- キノコさんの日に大根畑に入ってはいけない。(郡内一円)
- ハンザケに手を噛まれれば、雷が鳴らぬと離さない。(郡内一円)



参 考 資 料

「日野町子ども15年プラン」推進『知恵袋』作業チームによる調査研究活動

1 「子育ての知恵袋」の募集活動について

作業チームでは、募集チラシ（次ページ）を作成して次のとおり募集活動を行った。

募集期間	平成23年12月中旬から平成24年2月中旬まで
募集方法	①募集チラシの配布による募集（平成24年1月31日締切） <ul style="list-style-type: none">・日野町内全世帯に配布（1,420部、自治会長に依頼）・日野町内各事業所に配置（500部、町内21事業所に依頼）・日野町内各種団体に依頼（100部、町内9団体に依頼） ②作業チーム委員による個別訪問等による募集

2 「子育ての知恵袋」の応募状況

知恵袋の内容別応募状況は、次のとおりである。

・親子のふれあい（14点）	・家 族（6点）
・遊 び（4点）	・体 験（5点）
・物の大切さ、しつけ（5点）	・地 域（11点）
・生活の知恵（2点）	・その他（4点）

◎知恵袋合計 → 51点

※ り げん 俚 諺 . . . 35点

3 会議等の開催状況

会議等の開催	協議内容等
第1回作業チーム会議（平成23年11月25日）	・作業チームの設置、作業日程の確認
第2回作業チーム会議（平成23年12月12日） ☆子育ての知恵の募集（12月中旬～1月31日）	・子育ての知恵の募集方法について ☆子育ての知恵の募集
第3回作業チーム会議（平成24年1月17日）	・集まった子育ての知恵の仕分け方法等について ・子育ての知恵の追加募集について
第4回作業チーム会議（平成24年2月27日）	・日野町における「子育ての知恵袋」について（提案）

4 知恵袋作業チームのメンバー

委 員	百田 利彦（社会教育委員）	砂流 加奈代（PTA・保護者）
	長谷部 早百合（主任児童委員）	杉原 和江（おひさまひろば）
	生田 環（おひさまひろば）	松本 沙代子（おひさまひろば）
事務局	山縣 実（公民館）	其山 守美（教育委員会）